

## 第 2 回青森県国民健康保険運営検討会議における主な発言と対応

### 第 1 章 医療費及び財政の見通し

○青森県全体の県民の医療費というのは決して高くない。最も低いところの 1 つである。

(対応)「青森県国民健康保険運営方針(素案)」P 4「③ 1 人当たり医療費の動向」の説明文を修正。

○各市町村国保運営協議会の委員にきちんと教育をすべきである。

○各委員が理解して、局面をしっかり考えられるような情報共有をしながら議論していかないと進まないと思う。

(対応) 国保連合会の各支部が実施している国保運営協議会委員研修会に県が講師を派遣することもあることから、そのような機会を通じてしっかり説明していく。また、各市町村の担当者にも御意見の趣旨を伝えた上で、対応を求めていく。

○各保険者の役割と県の立ち位置などについて、明示する必要がある。

○今までは各々でやっていた事務が共通のプラットフォームに乗るということなので、広域の P D C A サイクルについて、青森県の状況にあった形での整理と分かりやすい提示をお願いしたい。

(対応) 県と市町村の役割を分けた上で、具体の取組を例示し、P D C A サイクルを整理(資料 2 P 21)。

○県の立ち位置として、赤字市町村に対する単なる助言ではなく、もう少し強い指導力が求められるのではないかと。特に、将来的には保険料水準を統一するという方向性であれば、将来的な事業の中身についても単なる調整、助言ということではなく、指導力を発揮していただきたい。

(対応) 第 8 章において、技術的助言のほか、意見交換や研修等を実施することとしたほか、第 3 章(保険料の徴収)、第 4 章(適正な保険給付)及び第 5 章(医療費適正化)において、県及び市町村の取組を具体的に記載していく。

### 第 2 章 納付金及び保険料の標準的な算定方法

○市町村によっては、来年 4 月から国保料に加えて介護保険料も上がることになり、そうすると滞納率も上がる。国保と介護保険、両方を見ながら指導していただきたい。

(対応) 第 7 章において、青森県介護保険事業支援計画を含む他の計画に基づく取組と連携を図ることとしているが、市町村においても、国保と介護、それぞれについて適正な保険料の設定と収納に努めていただくよう、指導していく。

### 第 3 章 保険料の徴収の適正な実施

○保険料の滞納はもちろん、各分野で低調なところはしっかり取り組まないといけない。

(対応) 資料 2 P 33「3 収納対策の強化」において、口座振替による納付の原則化を導入することを検討することについて定めたほか、収納体制の強化や財産調査・滞納処分の実施について記載。

### 第 5 章 医療費適正化

○重複頻回受診者に対する訪問指導について、実施状況しか書かれていないが、行動変容や効果を表すことができないか。

○重複頻回受診者に対する訪問指導が未実施の 13 市町村の中で、1 人当たり医療費が高いところがあれば、分析して、本当に効果的な事業は何かというところを各市町村に助言していただきたい。

(対応) 現状で把握しているのは実施状況のみであるが、行動変容や効果の把握方法等について、引き続き検討する。